

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS × KANDA

ゴール13 気候変動に具体的な対策を

13 気候変動に 具体的な対策を



近年、世界中で干ばつや集中豪雨、大型台風などによる自然災害が多発しています。これらの災害は、地球温暖化が引き起こす気候変動が原因で起こるもので、農林水産業などへの被害、難民

の発生など人々の暮らしに大きな影響を与えています。日本においても、100年に1度と言われるような集中豪雨が毎年のように発生しており、特に平成29年の九州北部豪雨は、人的被害や家屋の全半壊、床上浸水など、甚大な被害をもたらしました。地球温暖化の進行に伴い、自然災害の発生頻度は増加するとされており、気候変動対策が急務となっています。

また、日本は世界で5番目に二酸化炭素を排出しており、気候変動問題に対する日本の責任は大きいと言えます。

これらの気候変動への対策としては、「緩和」策と「適応」策の2つに分けられています。「緩和」策とは、省エネルギー対策や3R（前号で紹介しています）の推進など、二酸化炭素の排出を抑制するための取組みのことで、「適応」策とは、災害対策や農作物の高温障害対策など、被害の回避・低減を図る取組みを指します。日本ではこの2つの対策を両輪とし、気候変動対策に取り組んでいます。



近年、苅田町でも自然災害が発生（平成30年7月豪雨）

苅田町の取り組み

次世代自動車（電気自動車、プラグインハイブリッド自動車、燃料電池自動車）は走行時の温室効果ガスの排出量が少ない、または全く排出しない環境にやさしい自動車です。

電気自動車などへの充電に太陽光発電などの再生可能エネルギーを利用することで、さらなる温室効果ガスの削減につながります。

またバッテリーや燃料電池に貯めた電力を家庭用電力として活用すれば、災害時の非常用蓄電池としての役割も果たせます。

町では、国内メーカーの次世代自動車を新車で購入する際に購入費の一部を補助しています（補助金は予算に限りがあります）。国の補助金と併用可能ですので、この機会にご検討ください。

詳しくは町ホームページをご覧ください（QRコード）。



私たちにできること

気候変動対策という大きなレベルの問題であっても、「緩和策」、「適応策」のそれぞれにおいて、個人でできる取組みは多くあります。

①緩和策

- ・クールビズ・ウォームビズなどを推進し、冷暖房機に頼らない
- ・電気をこまめに消して無駄な電気を使わない
- ・大量消費をやめて「3R」を心がける

②適応策

- ・避難場所や避難場所までの行き方を確認する
- ・緊急時の連絡方法を家族で決めておく
- ・大雨が予測されるときは早めに避難をする